

### 入居者を路頭に 迷わせない施策

全国で十四万戸、三五万人が暮らす雇用促進住宅について、政府は二〇一一年までに半数を廃止すると決定しました。本市にある八〇世帯入居可能な雇用促進住宅も、廃止の対象となっています。入居している多くの方々が困っている状況で、「行き場のない市民をうまないよう、市として最善の策を講じるべきだ」と、山形議員は質問しました。



廃止の対象となっている 雇用促進住宅 中根宿舎

### 難病患者福祉手当 の実施を早急に

難病患者福祉手当は、すでに県内三七市町村が実施しており、もう「近隣の市町村の動向を踏まえ」などとは言えない喫緊の課題になっています。「本間市政が、福祉行政に真剣に取り組

むかどうか、政治姿勢が問われる」と、山形議員は質問しました。市長は、国の責任としながら「患者さんの通院等の実態、手当の在り方など検討していきたい」と答弁しました。大きな前進です。

### 高すぎる 国民健康保険税

「国保税はほんとに高い」とみんなが実感しています。世帯主が病気で亡くしたら、途端に払えなくなってしまうような、高い保険税が課せられるようになったのは、一九八四年の国保法の改定後に、国庫負担を減らしてきたことが大きな要因です。市町村国保の総収入に占める国庫負担は49・8%から〇五年には30・6%に減少しました。さらに九七年の国保法改定では、保険料滞納世帯に対し資格証明書の発行、つまり国民健康保険証を取り上げることが義務付けられました（実施は二〇〇〇年度から）。今日のように失業や営業の悪化で、多くの国保世帯は生活が苦しくなっています。

市は「年金課の方から直接出て向いて事情を聴く機会はない」と、答弁するのみでした。

### その他の質問

◆低所得世帯等への灯油代の助成  
◆国保税を滞納し無保険になった子どもについて  
◆介護保険第四期事業計画。保険料の値上げ・サービスの低下を招かないように  
◆保育所の「直接契約」「直接補助」など、国の施策について市の考え  
◆就学援助制度の積極的な活用を  
◆地球温暖化を防ぐための環境にやさしい暮らし（ごみ減量化の視点から）。

### 議案に対する態度

十二月議会に提案された議案に対し、山形議員は次の二件について反対討論をおこないました。  
○勝田駅東口地区市街地再開発事業特別会計補正予算案  
○市立保育所設置及び管理条例の一部改正案について  
◆議会広報委員会作成の「ひたちなか市議会だより」に、山形議員の反対討論の主旨が書いてあります。  
◆この二件の議案に反対したのは、二七名の議員のなかで山形議員だけでした。

### ゆみ子のメモ

○議会広報委員会編集の「ひたちなか市議会だより」では、誰が質問し誰が反対討論したのか分らないという声をよく耳にします。山形議員も、再三、当委員会のなかで「質問に責任を持つうえからも、議員の名称は書くべきだ」と主張しました。しかし「日立市も書いてないから」「一度、議員の名前を出さないと決めたら出さない」というのが委員会全体の意見です。理解に苦しむところです。

### シジミが食卓から遠のく？ 水道料金も高くなる？

「霞ヶ浦導水事業のいま」  
国交省がすすめている「霞ヶ浦導水事業」。いま、「那珂川の環境を守ろう」「無駄な公共事業をやめ、暮らしを守ろう」と、工事中止を求める声が高まっています。

### 霞ヶ浦導水 事業とは

この工事は、首都圏の水道用水・工業用水の開発、霞ヶ浦と桜川・千波湖の浄化、漏水被害の軽減を目的に、一九八四年トンネル工事が始まりました。しかし人口減少によって新たな用水は不要になっています。また霞ヶ浦や千波湖の浄化は、周辺の下水排水こそが最も効果的な対策であると言われるなかで、霞ヶ浦導水事業推進の根拠は失われています。

### 「那珂川の魚類・ 生態系に大きな影響 と評価委員会

那珂川流域漁協が調査を委託した「那珂川の魚類・生態系影響評価委員会」は、昨年十二月十一日に報告書をまとめました。そのなかで①事業開始は那珂川の魚介類と生態系に大きな影響を及ぼす、②異なる水系の混合は生態系のかく乱・破壊を招く、③関係漁協の同意を得ない取水口建設工事は、不法行為と結論づけています。

### アユ漁協が 取水口工事の 中止を求め裁判

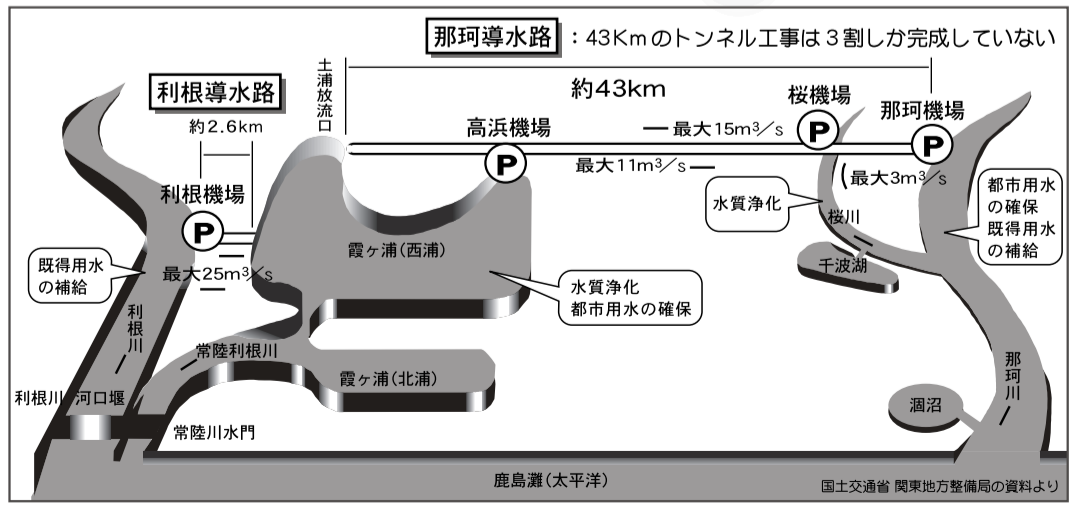
那珂川は、日本で一番アユが生育するきれいな川です。天然アユの量は、環境の健全性の「目安」とも言われています。この那珂川に取水口をつくれれば、仔魚が吸い込まれ死滅してしまう恐れがあります。茨城・栃木県流域の七つの全漁協は、〇八年三月二七日に、取水口の工事差し止めの仮処分を求め、裁判に立ちあげました。水戸地裁に提出された地域住民の反対署名は、十万人を超えています。

### シジミ漁も 深刻な被害

大酒沼漁協も導水事業の中止を求めています。同漁協は昨年十二月十三日、「那珂川河口の酒沼のシジミに与える影響について考えるシンポジウム」を開催しました。会場となった大洗文化センターには、漁協の組合員や関係者など二百五十名が参加。出席した専門家から「シジミ漁が深刻な被害を受ける」という発言が相次ぎました。

### 水道料金の 値上げになる！

本市では現在、県水を一万九四九トン（日量。金額では何と年間五億九千万円）購入し、地下水の利用と合わせて充分間に合っています。しかし導水事業が完成すれば、六万九千四百トン購入するという契約を行なっています。市民の水道料金が大幅にアップすることは避けられません。自然環境や市民の暮らしを守るため、またおいしく安全な水を守るため、「霞ヶ浦導水事業は中止せよ」の世論と運動を広げましょう。日本共産党は全力を尽くします。



那珂導水路：43Kmのトンネル工事は3割しか完成していない

鹿島灘(太平洋) 国土交通省 関東地方整備局の資料より